



令和2年度
大曲商工会議所青年部

会長 佐藤 渉

「コロナ禍においての青年部の今」四月十六日に発令された緊急事態宣言により、私達の生活は一変しております。ウイルスという目に見えない驚異を常に報道にて感じる日々は、感染予防の徹底ならびに感染多発地域への移動制限が続く今日です。私達が暮らす大曲でも、各企業の出張自粛や人の集まるイベントの中止、青年部活動にはなくてはならない交流会等にお

いては、開催会場の収容人数の五十%までの規模や新しい生活様式を遵守したなかでおこなっております。会員企業の皆さんもこの状況下において多大な影響を受けており、今後ますます感染対策の強化ならびに人の集まりや人の流れの規制を強いられることが明白であります。四月より年度当初の活動予定を行えないなかで、私達は会員と地域に対する応援事業を活動に組み入れる事を決定いたしました。中止となっている地域行事への支援や応援クラウドの情報を共有し、みなで意見を出し合い輪となってこの難局に立ち向かいます。終息後には、いま全力で取り組んだ応援や対応策が新しい青年部モデルとなり、今後の自企業発展・継続のための大きな財産となるよう邁進してまいります。

『サプライズ花火』の取り組み
副会長・東北ブロック商工会議所青年部連合会監事

齋藤 健太郎

新型コロナウイルスの影響により、我々花火業界の“日常”は大きく変わってしまいました。昨年秋頃からつくりこんできた花火のほとんどが打ち上げられずに眠っております。火薬類の貯蔵は、法律によって定められた量しかできないため、五月に入ってから製造をストップせざるを得ない状況となつてしまいました。我慢するしかないのか、花火屋に何かできることはないかと奮い立ち、全国の花火業者が協力し合つて、同日同時刻に一斉打ち上げ（Cherup！花火プロジェクト）を企画、百六十三業者により二百五十カ所を超える場所で、悪疫退散を祈願し、希望と元気を届けたいと花火を打ち上げました。このプロジェクト以降、サプライズ花火の相談が増えてきました。これまでの集客を目的とした花火大会とは全く違うサプライズ花火は、身近な人へ想いを届ける花火として新しいカタチを確立しつつあります。新

型コロナウイルスは、我々を未曾有の危機的状況に追い込んだ反面、思いやりの心や支え合い協力し合う心など、大切なものは何かを気づかせるきっかけにもなりました。うつむいていても何も変わらない、上を向いていきましょう。私たちは空を見上げて楽しむ花火に、“心”を込めてつくり続けます。

現在、秋田県大曲にある花火伝統文化資料館「はなび・アム」にて弊社の特設ブースを来年の一月まで展示させていただいております。弊社の花火のこだわり、会社の特徴や歴史、他では見ることができない品も多数ございますので、是非お立ち寄りください。





秋田県連サポーター室長 総務委員
会副委員長 秋田県商工会議所青
年部連合会専務理事

久保田 健一郎

#大仙エール飯

それは突如として、私たちの生活を一変させました。震災とも経済的なショックとも違う雰囲気、掴めない未曾有の危機が今もなお私たちの生活を脅かしているのか、または、何かを浄化しようとしているようなことなのかも知れませんが、

新型コロナウイルス対策として、このような最中でも何か出来ることはないだろうかと様々な施策が官民間わず全世界各地で実行されようとしていました。私の経営する飲食店も自主的に休業を始めていましたが、このままではあつという間にこれまで積み重ねてきたことが、終わってしまうという危機感を抱いていました。毎日インターネット、SNS覗いては、「この施策は地元ではどうだろう、この施策は誰とやったら上手くいくだろう」だとかを考えていました。SNSの記事に、当時じわじわと稼働し始めていた「テイクアウト

トをしている、または始める飲食店」の情報を集めるサイトやページを始めてくれていた方が増えつつありました。これは素晴らしいな！と思っていたのですが、何かがひっかかっていた。それを明確にしてくれたのが、大曲YEGのメンバーでもある小田島美佳さんのSNSでのツブヤキでした。それは、「もっと身近な地元の飲食店の情報が埋もれてしまうので、なんとかならないかな」といったものでした。私の中で引か

かっていたのも、まさにそれであると共感していたところへ、おそらくは同じように何か出来ないかとアンテナをはっていたのである。同期の大曲青年会議所メンバーから、同じタイミングで、同じ小田島美佳さんのツブヤキを見て、「何か出来ないかな？」とLINEが入ってしまいましたので、特にYEGやJCといった組織に携わられてきた皆さんは良くご存じと思うのですが、この類の慈善活動系な行動を始めると儲からなくて、最初に手をあげると面倒なことになることを知っているの、いつも腰が重くて嫌なのですが、

これはもう待ったなし、時間一杯やるしかないなど一念発起、考えることをやめ、信頼できる仲間づくりから私らしからぬスピードで始めて、走り出しました。

大分県別府市です。に始まったいた#別府エール飯は、そのロゴがカッコ良かったということだけ感じたものだったのですが、「カッコいいは、とりあえず目を引くだろう」といった妄想をまずは勝手に設定して、あれをそのまま大仙にして使えないだろうか、そしてからスピード感を持って走り出せると思い、翌日には小嶋段さんから、別府市の担当者にロゴなどの使用权について確認してもらいました。ところ、どれも全てどのように使ってもらっても構わないとお返事を頂戴しましたので、これもまた私らしからぬスピードで動き出してくださった仲間と共に#大仙エール飯のロゴやSNSアカウント、ホームページなども作成し、体制を整えることが出来ないまま。そこへ、大仙市や各メディアも次々と反応していただき、市の広報にも大きく掲載していただくなど、運動は「#ハッシュタグ」

を活用して、まさにパンデミックのごとく広がって行きました。現在もSNSの管理やシェアなどを出来るタイミングでやらせていただきながら、プロジェクトを運営しています。皆さんからのご協力といただいた情報のおかげで、この田舎でもSNSを通じて、大きなムーブメントを作れることを実証できたことも成果があったと感じています。まだまだ先の見えないう状況ですが、この先も#大仙エール飯プロジェクトに限らず、地域を支える次の青年経済人として、今だからこそできる何かを考え、私らしからぬスピードで実行していきたいと思っています。



大仙エール飯で大活躍したYEGメンバーお二人にその背景をリポートしました。
広報委員会 米澤 智美さん
弁天

広報委員会 佐藤 美樹さん
BISTRO NoMoCa

Q 大仙エール飯を取り入れようと思った経緯を教えてください

(米澤) 新型コロナウイルスが本格的に蔓延してきて、三月四月の歓送迎会が全てキャンセルとなり、テイクアウト、出前の注文でまずはこの状況を切り抜けないと！また、なるべくお客様の普段の生活を楽しんで？というか変えていただきたくないと思って始めまし

た。

(佐藤) 当店はオープン当初から通常営業と同時に地域の子供達に無料で食事を提供する「おおまがりこども食堂」を兼営して来ました。

なので今回の大仙エール飯に関しても下落する店内売上の補填という感覚ではなく「おおまがりこども食堂」の認知拡大になればという思いでの参画。

そして飲食店は毎日仕入れが行われます。

お客様の来店が読めない状況になってしまっても、食材仕入れは続きます。

もつたいない！！廃棄するくらいなら原価無視で豪華な弁当を五百円で出しちゃえ！！が大仙エール飯を取り入れた経緯です。



Q 特に工夫した点や成功例など教えてください

(米澤) 今まで通りのスタイルでは他店との競争には勝てないと思ったので「意外性」を狙いました(笑)

弁天 寿司屋、のイメージが強いのと、若い世代のお客様が気兼ねなく利用していただけメニューは？と考えた時に普通だったら寿司屋では絶対出ないであろう！でも昔から大曲で親しまれてるモノって？と行き着いたのが「オーブンカツ」でした。



(佐藤)「子供弁当は無料」大人用のお弁当に關しても「この豪華さで五百円??」を貰いた事で多くのリピートを頂く事が出来ました。売上を取りに行く工夫をしなかつた事、利益を求めなかつた事で、それ以上の告知効果があったと実感しています。



Q お客様の反応はいかがでしたか?

(米澤)『お寿司やさんなんですよね?でもカレー?』って言うってもらえるのが快感でした(笑)『これだよ!懐かしいッ!』とオープンカツが青春の味世代の方々にも喜んでいただけて本当に嬉しかったです(▽▽)

(佐藤)お陰さまで大仙市だけでなく横手市や秋田市、なぜか和歌山県など、広い地域に「おおまがりこども食堂」の活動が広まりました。遠方から突然食材が届いたり、名も知らない方から協賛金が届いたりと利益度外視で「子ども弁当無料」をやり続けて本当に良かったと思っています。

ご協賛、ご賛同頂いた方々の期待に添える様、今後もコツコツと活動を続けていかなければ!と勇気づけられました。



Q 今後の課題はありますか?

(米澤)課題...というか、まずはお客様に喜んでいただける物を愚直に!そして感謝の気持ちを忘れず作っていききたいと思っています。まだまだ先が見えない部分もあるので、少しでもお客様の立場になって必要となるものを提供してい

きたいと!
食育アドバイザーとしての知識もフルに活用して、美味しく健康にもなる商品を考えてます!

(佐藤)今後コロナとは一生付き合い合いて行かなければならないと思っております。

この逆境の中、多くの飲食店が撤退・廃業に追い込まれましたが、幸い当店は何とか首の皮一枚繋がっております(笑)

課題というよりは使命として、地域の子供達に温かい食事を提供し続ける事。ただこの活動の維持にはそれ相当の経費が掛かります。私一人の力では限界が来るかもしれません。そうならない為に一人でも多くの協賛者・協賛社を募る事が今後の課題でしょうか。商工会の皆様も、ご協力頂きますと幸いです。



大曲商工会議所青年部

新規加入者紹介

岡本 太郎 (広報委員会)

(株)とんもと 副社長

大仙市大曲丸の内町二、二六

〇一八七・六三・六一三六

昭和五十五年三月二十四日生まれ

AB型

佐藤 樹(たつる) (交流委員会)

佐藤樹社会保険労務士・行政書士事務所 所長

大仙市神宮寺字館ノ南八、三

〇一八七・七三・七八八三

昭和五十二年八月八日生まれ

A型

佐藤 美樹 (広報委員会)

BISTRO NoMoCa

大仙市大曲丸の内町九、八マル六

ビル1F

〇一八七・八八・八九七五

昭和六十一年四月十五日生まれ

O型

塩谷 忠広 (総務委員会)

羽後信用大曲南支店

大仙市大曲上栄町十四・三十四

○一八七・六二・七七五五

昭和五十五年三月二十日生まれ

○型

遠田 梓 (総務委員会)

(有)アテザン 専務

大仙市大曲日の出町一・二〇・二三

○一八七・六二・六六七五

昭和五十五年二月六日生まれ

A B型

福田 佳章 (事業委員会)

エフシー株式会社

代表取締役専務

大仙市戸蒔字松ノ木九八

○一八七・六二・五四六六

昭和五四年九月三日生まれ

○型

松田 健太郎 (広報委員会)

創作酒菜・天ぷら ランタン店主

大仙市大曲丸の内町二・一〇

E & Mビル2F

○一八七・七三・八二三五

昭和五八年七月十日生まれ

○型

編集後記

本来であれば奔流第六八号は大曲の花火(夏の章)の特集の予定でした。しかしコロナウイルス感染拡大予防対策の為に来年に延期になり、記事の内容も大幅に変更となりました。

このコロナ渦の中で戦う商工会議所青年部メンバーの様々なドラマを色々な角度で記事にしてみました。悪戦苦闘しながらも前向きに頑張っている仲間の姿は素晴らしい。

この非常事態は何としても避けたい現実ではあるものの各事業者の底力を垣間見る事が出来ました。まだまだ続く先の見えない事態。そんな時こそこの組織を通して協力し合い励まし合って行きたいと強く感じる今号でした。

広報委員会 三浦隆吾